

# 建築人

9

2014





今秋十一月から、石川県金沢市で、「谷口吉郎・谷口吉生展―金沢が育んだ二人の建築家」と題された建築展が始まる。会場となるのは金沢市民芸術村（設計：水野一郎）、紡績工場の赤煉瓦の建築群を保存再生し、市民が二十四時間自由に使える美術や舞台、音楽の練習と発表の場として、一九九六年に開館した市民には馴染みの場所だ。でも、なぜ美術館ではなく、あえて学芸員のいない貸しスペースに、持ち込むような形で、建築展を開こうとしたのだろうか。それを強く望んだのは、当事者の一人、谷口吉生（一九三七年―）自身に他ならない。そこには、建築展をより市民に開かれた場所で開催することによって、建築文化への関心を少しでも高めたい、とする意志が込められている。しかも金沢は、父・谷口吉郎（一九〇四―一九九年）が九谷焼の窯元に生まれ育った生地であり、彼自身も戦時中に疎開して幼少時代を過ごした縁のある町だった。昨年、香川県で開催された丹下健三展のシンポジウムで同席したことが縁で、筆者もこの企画の末席に加わることになった。

その打合せをかねて、八月初旬に金沢を訪れ、谷口吉生と谷口吉郎の建築群を駆け足で巡り歩いた。中でも印象に残ったのが、今回紹介する一九七八年に竣工した金沢市立図書館である。この建物は、旧専売公社のたばこ工場であった赤煉瓦の建物を保存改修した古文書館と、併設して新築された図書館の本館から構成されている。谷口吉郎が設計の総合監修を務め、本館を谷口吉生が担当した。晩年に明治村の設立にも精力を注いだ谷口吉郎は、自らの原風景でもあった明治の様式建築を後世に残そうと、赤煉瓦の遺構と取り組んだに違いない。外観はできるだけ原形を残しつつ、外壁や窓

## 記憶の建築 松隈 洋

金沢市立図書館 1978 年  
共同作品に見る最初で最後の親子の競演



建物外観（手前が古文書館、奥が図書館本館）



中庭に面した図書館の閲覧室

枠などの詳細な部分には入念な修復と復元を施された。また、木造と鉄骨造の元の構造体は取り除き、鉄筋コンクリートの壁を新設して壁体を支持する方法が取られた。この古文書館は、金沢における様式建築の保存活用先の先駆ともなったという。一方、谷口吉生は、重厚な煉瓦建築とは対照的に、耐候性鋼板を用いた平滑な外壁と大きく開いたガラス面で構成された透明感のある現代建築を対置させた。さらに、図書館の管理部門や研究部門を開架の閲覧スぺー

中に入ると、設計で意図されたとおり、思いの場所と、本に親しみ、ゆったりとした時間を過ごす人々の姿であふれていた。こうして、この古文書館と図書館の本館からなる一対の建物では、図らずも、親子による建築デザインの競演が実現する。しかし、竣工後に記された谷口吉生の文章は、次のように締めくくられていた。

「私事になるが、この新図書館の開館を前にして去る二月二日、私は父を亡くした。こう記した谷口吉生は、この仕事と併行する形で、同じ時期に、自らの実質的なデビュー作となる資生堂アートハウスを竣工させている。そして、父亡き後、その仕事を受け継ぎ、それを発展させるかのように、土門拳記念館（一九八三年）、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（一九九一年）、豊田市美術館（一九九五年）など、現代的な素材や構法を用いて、洗練された透明感あふれる建築を次々に生み出していく。さらに、その仕事は世界へも広がり、二〇〇四年には、指名コンペで一等を獲得したニューヨーク近代美術館へと結実する。

時代はめぐる。時を経た二〇一一年、谷口吉生は、金沢で、父とも交友のあった金沢出身の哲学者を記念する鈴木大拙館を完成させる。この時、偶然にも、金沢市立図書館で共同した父と同じ歳を迎えていた。おそらく、この仕事は、金沢の歴史や風土、建築をめぐる、父と改めて対話する機会にもなったのだと思う。父から子へと手渡されてきた建築の営みは、こうして、確かな形で再び金沢の地に根づいたのである。その起点となった金沢市立図書館と共に、親子二代が培ってきた建築文化が次の世代に伝わることを願わずにはいられない。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工芸）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

本会における既存建築物耐震診断等評価業務のご案内

～平成26年1月より耐震評価業務を開始～

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の専門家で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を心掛けますのでどうぞ活用ください。

なお、本会は平成26年2月18日付けで、（一財）日本建築防災協会の「既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会」に入会するとともに、当委員会の耐震判定委員会に新規登録しました。

http://www.kenchiku-bosai.or.jp/nw/（業務内容）

耐震診断報告書の審査、評価  
耐震補強計画案の審査、評価 等  
(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10％割引があります。

詳細は、本会ホームページをご覧ください。

|                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------|
| 大阪府知事指定講習<br>平成26年度既存木造住宅耐震診断・改修講習会《境界耐力計算法講習会》<br>9/18・12/18 CPD6単位 |
|----------------------------------------------------------------------|

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。

したがって、変形能力が高い伝統講法の民家や社寺建築の耐震性能を多角的に評価でき、一般診断法では不可能な変形能力や減衰性能を考慮した合理的な補強計画やダンパーを用いた最新技術による制振補強も可能となります。

この機会に、限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。

日程 第1回目 9月18日(木)  
第2回目 12月18日(木)  
時間 10:00～16:30  
会場 大阪府建築健保会館内  
定員 各150名(定員になり次第締切)  
受講料 主催・後援団体会員6,000円、会員外8,000円  
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

|                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------|
| 大阪府知事指定講習<br>平成26年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》<br>11/28・1/30 CPD5単位 |
|---------------------------------------------------------------------|

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。耐震改修促進法により耐震診断が義務付けられた建築物の耐震診断は、日本建築防災協会が実施する登録講習を受講修了する必要があります。)

日程 第1回目 11月28日(金)  
第2回目 平成27年1月30日(金)  
時間 11:00～16:30  
会場 大阪府建築健保会館内  
定員 各150名(定員になり次第締切)  
受講料 会員5,000円、会員外9,000円  
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

|                                                    |
|----------------------------------------------------|
| 一級建築士／設計製図 受験対策講習会<br>模擬テストⅠ・Ⅱ・Ⅲ<br>9/13、9/20、9/27 |
|----------------------------------------------------|

|                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務に直結した指導を行います。また、今年度より模擬テストの通信講座を新設しました。通学のお時間がとれない方はぜひご検討ください。 |
| ■模擬テスト(通学講座)                                                                        |
| 日程 I：9/13(土)、Ⅱ:9/20(土)<br>Ⅲ:9/27(土)                                                 |
| 時間 9:00～18:30                                                                       |
| 会場 大阪府建築健保会館                                                                        |
| 定員 【各回】40名(申込先着順)                                                                   |
| 受講料 【各回】建築士会会員14,000円、一般18,000円                                                     |
| ■模擬テスト(通信講座)                                                                        |
| ご自宅への課題到着予定日<br>Ⅰ:9/13(土)、Ⅱ:9/20(土)、Ⅲ:9/27(土)                                       |
| 定員 【各】20名(申込先着順)                                                                    |
| 受講料 【各】建築士会会員12,000円、一般15,000円                                                      |

|                                                          |
|----------------------------------------------------------|
| 建築士法にもとづく建築技術講習会<br>建築士業務の紛争・保険・処分事例解説講習会<br>9/19 CPD3単位 |
|----------------------------------------------------------|

建築紛争は多様化し、建築士への処分の運用が年々厳格になりつつあることを踏まえ、紛争事例や処分事例、建築士賠償責任保険(けんばい)の事故事例をもとに、建築の事故時に適用される保険の適用事例について説明します。ぜひ本講習会を受講され、トラブルのない適切な業務環境構築の一助としてご利用ください。

日時 9月19日(金) 13:25～16:25  
会場 大阪府建築健保会館6階  
内容 ・建築士の責任と義務  
・建築士業務の紛争事例の解説  
・建築士業務の保険適用事例の解説  
・建築士処分事例の解説

テキスト 「建築士業務の紛争・保険・処分事例」(株式会社出版社発行 3,240円税込)

定員 100名(定員に達し次第締切)  
受講料 本会・後援団体会員4,500円、会員外6,500円(テキスト代含)

|                                                        |
|--------------------------------------------------------|
| 建築士法にもとづく建築技術講習会<br>あなたが行う監理のために(2)<br>9/25 CPD3単位(予定) |
|--------------------------------------------------------|

昨年度好評を博した監理(さらかん)特集です。昨年度の講義内容に新しい情報を加えて、施工会社や設計事務所の監理担当者に監理の要点をご講義いただきます。

日時 9月25日(木) 13:25～16:25  
会場 大阪府建築健保会館6階  
内容 ・鉄骨工事の工事監理  
・鉄筋コンクリート工事の工事監理  
・求められる工事監理

定員 150名(定員に達し次第締切)  
受講料 建築士会会員3,500円、一般5,500円(テキスト代含)

|                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------|
| 大阪府知事指定講習<br>「あべのハルカス」建築技術講習会<br>～「あべのハルカス」から最先端の建築技術を学ぶ～<br>10/2 CPD3単位 |
|--------------------------------------------------------------------------|

あべのハルカスの計画・建設にあたり「超高層コンパクトシティ」のコンセプト実現に向けた斬新なアイデアやデザイン、最先端の新開発技術、現場の工夫や苦労などについて、竹中工務店の設計・構造・設備・施工の実務担当者をお招きし、あべのハルカスの建築の全貌をわかりやすく紹介します。また、希望者のみの展望台オブションツアーもございます。

日時 10月2日(木) 13:00～16:50  
展望台オブションツアー 17:00～

会場 あべのハルカス25階会議室  
内容 ・全体計画の紹介ビデオ上映  
・建築計画 ・構造計画  
・設備計画 ・施工計画

定員 300名(定員に達し次第締切)  
受講料 本会・後援団体会員2,000円  
会員外3,000円  
学生1,000円(テキスト代含)  
展望台オブションツアー 1,350円

|                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------|
| 建築士法にもとづく建築技術講習会<br>電力システム改革とスマートハウス関連の最新技術<br>10/23 CPD3単位(予定) |
|-----------------------------------------------------------------|

平成27年から電気の小売および発電が全面自由化され、新しいビジネスモデルに基づくスマートコミュニティが生まれます。また、スマートハウス関連事業は今後約10年間で約2倍の3兆5000億円に達すると言われています。本講座においては、今後、我々の生活にとって大きな変革となる「電力システム改革」とスマートハウス関連の最新技術を紹介します。

日時 10月23日(木) 13:25～16:40  
会場 大阪府建築健保会館6階  
内容 ・ここまで来ている次世代スマートハウスと電力システム改革鉄骨工事の工事監理  
・次世代型高効率給湯器の最新情報：見えてきた集合住宅への導入と新しい暮らし

定員 150名(定員に達し次第締切)  
受講料 建築士会会員3,500円、一般4,500円(テキスト代含)

|                                      |
|--------------------------------------|
| 平成26年度 建築士定期講習<br>11/20、1/28 CPD各6単位 |
|--------------------------------------|

建築士事務所所属の一級・二級・木造建築士で、平成23年度に定期講習を受講された方が対象です。尚、平成23年度以前に建築士試験に合格し本講習を未受講の方は、平成26年度中に必ず受講してください。

■日時・会場  
11/20(木) 9:40～17:30  
大阪国際交流センター、定員300名  
会場コード5C-52  
1/28(水) 9:40～17:30  
大阪国際交流センター、定員300名  
会場コード5C-03

■申込締切日  
11/20(木)開催分:10/20(月)申込書必着  
1/28(水)開催分:12/19(金)申込書必着

※大阪での申込受付は簡易書留での郵送のみです。

※定員に達し次第、受付を終了します。

■受講料 12,960円(消費税含)  
■申込書配布・受付場所  
大阪府建築士会事務局  
大阪府建築士事務所協会事務局

|                                                              |
|--------------------------------------------------------------|
| 第3回国際映画会<br>「レイテ島台風の被害に見る住宅地事情～フィリピンと日本～」<br>9/12 CPD3単位(予定) |
|--------------------------------------------------------------|

映画監督でありNPO サルボンの代表である今泉光司監督を招き監督自ら撮影したレイテ島台風の記録映画を見、監督のトークショーを開催します。

日時 9月12日(金)  
受付17:30～ 開始18:00

会場 内田洋行ユビキタス協創広場CANVAS  
大阪府中央区泉町2-2-2 谷四下車8分

会費 2,000円  
トーク 今泉光司(映画監督)

ゲスト 梅津和時(サックス・クラリネット)

映画 「2013年11月8日レイテ島、巨大台風ヨランダ上陸」

※純益は全てフィリピンの学校の子供達に楽器を贈る支援に用いられます。

締切 9月4日(木)

|                                   |
|-----------------------------------|
| 榊川島織物セルコン本社市原工場見学会<br>9/18 CPD2単位 |
|-----------------------------------|

榊川島織物セルコンでは織物の歴史を見ていただける織物文化館を設けております。工場見学では手作業での綴れ織の綴帳製作や呉服帯の製作の作業風景、カーテンなどの機械での織物工場を見学いただきます。見学の最後に内井昭蔵設計の川島テキスタイルスクールも見学いただきます。

日時 9月18日(木) 13:45～16:30  
集合場所 13:45 叡山電鉄市原駅集合  
見学場所 榊川島織物セルコン本社・市原事業所  
京都市左京区静海市市原町265

定員 40名(申込み先着順)  
参加費 会員1,000円 会員外1,500円

|                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------|
| 第10回海外研修旅行<br>「メキシコのバラガンとレゴレッタそしてアステカの遺跡・カatedral」<br>11/10～17 CPD42単位(予定) |
|----------------------------------------------------------------------------|

今回はメキシコシティを中心に、主にバラガンとレゴレッタの作品を視察し世界遺産のプエブラの街並み、クエルナパカを訪ねまたテオティワカンの遺跡も巡ります。現地の建築家との交流も予定しています。

とき 11月10日～17日(6泊8日)  
参加費 15名参加の場合395,000円(但し燃油サーチャージ他は別途必要)

※航空機の予約の関係上9月10日までにお申込みをお願いします。

|                                         |
|-----------------------------------------|
| 第6回建築紛争フォーラム<br>－集合住宅・戸建住宅等の建築紛争の現状と課題－ |
|-----------------------------------------|

|                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本会の催し参加問合・申込先<br>大阪府建築士会事務局<br>〒540-0012 大阪府中央区谷町3-1-17<br>高田屋大手前ビル5階<br>TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103<br>メール info@aba-osakafu.or.jp<br>HP http://www.abo-osakafu.or.jp/ |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                |
|----------------|
| Administration |
| 行政からのお知らせ      |

平成26年度大阪府住宅省エネルギー設計技術講習会および施工技術講習会開催

(設計技術講習会)

木造戸建住宅を対象に、省エネルギー住宅の設計計画及び設計性能を実現するための施工技術の重要性について解説を行うとともに、省エネルギーの評価方法として改正省エネ基準に基づく省エネ計算方法の解説と演習を行います。

日程 9/11、9/25、10/9、10/23、11/6のいずれか1日

※9/11、9/25は既に定員に達しています。

時間 10:00～17:00

会場 大阪府建築建保会館5階  
大阪府中央区泉町2-1-11

(施工技術講習会)

住宅の断熱設計から断熱施工までのポイントをテキスト・DVD・カットモデルを活用し分かりやすく解説します。

日程 9/4、9/18、10/2、10/16、10/30、11/13、11/20、11/27のいずれか1日

※9/4、9/18は既に定員に達しています。

時間 10:00～17:00

会場 花博記念公園ハウジングガーデンセンターハウス2階  
大阪府鶴見区焼野1丁目南2番

講習会費用(設計技術・施工技術共) 1,000円(受講料)+別途修了証発行手数料(修了証なしも選択可能)

主催・問合 大阪住宅センター

|                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| Tel.06-6253-0073<br>小角(こすみ)・寺尾・山田<br>※詳細はHP (http://www.shoene.org/)もしくは主催問合先へお問合せください。 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|

|          |
|----------|
| Others   |
| その他のお知らせ |

|                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日本建築学会司法支援建築会議では、建築紛争を巡る課題について司法会員、裁判官、弁護士等で意見交換を行うとともに、学会大会を機に全国の司法会員との交流の場を設けるために、学会大会関連行事として「建築紛争フォーラム」を開催していますが、2014年度の建築紛争フォーラムは、学会大会が9月12日～14日に神戸大学で開かれるにあたり、昨年4月に設置された司法支援建築会議近畿支部が企画したテーマ「集合住宅・住宅等の建築紛争の現状と課題」を主題として開催します。 |
| 主催 日本建築学会司法支援建築会議                                                                                                                                                                                                                  |
| 日時 9月14日(日) 13:30～17:00                                                                                                                                                                                                            |
| 会場 兵庫県県学会館大ホール<br>神戸府中央区北長狭通4-3-13                                                                                                                                                                                                 |
| 定員 200名                                                                                                                                                                                                                            |
| 費用 無料                                                                                                                                                                                                                              |
| 申込・問合 日本建築学会<br>Tel.03-3456-2051                                                                                                                                                                                                   |

|                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議住まいづくり市民セミナー@神戸「住まいと市民生活－神戸、大阪、京都の住情報センター」の活動を振り返り、その「これから」を語りあおう」 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|

関西では、住まいに関する相談と情報発信を担うセンターが神戸市、大阪市、京都市に設置されています。本セミナーは、各センターで積み重ねられてきた住まいに関する相談や情報提供、学習活動等の事業を振り返り、それらが果たしてきた役割や意義を確認・共有するとともに、今後、センターに期待される役割や取り組みでeraitたい事業を、住まい・まちづくりに関心をもつ市民、関係団体、専門家らが一堂に会して議論します。

日時 9月15日(月・祝) 13:30～16:30  
会場 こうべまちづくり会館3階ホール  
神戸府中央区元町通4-2-14

定員 90名 参加費 無料  
申込 FAXまたはE-mailにて「催し物名称、氏名、勤務先・所属、電話番号」を明記のうえ下記までご送付ください。

建築会議事務局(川田)  
Fax.03-3456-2058  
E-mail:kawata@aij.or.jp

|                        |
|------------------------|
| 「幻燈で見る大阪の戦争遺構2」スライド上映会 |
|------------------------|

歴史建築に比べ評価されにくい戦争遺構。保存を求める声がある高架式の旧高射砲陣地跡、旧第四師団司令部庁舎等、惜しまれながら取り壊されたもの、保存され活用されている戦争遺構を幻燈で見ながら戦争と平和について考えます。

講師 柴田正己(戦争遺構研究会代表)

日時 9月20日(土) 11:00～

会場 堺市立東図書館

問合 戦争遺構研究会  
Tel.090-4289-1492

|                                         |
|-----------------------------------------|
| 第6回建築紛争フォーラム<br>－集合住宅・戸建住宅等の建築紛争の現状と課題－ |
|-----------------------------------------|

|                                                    |
|----------------------------------------------------|
| 面材耐力壁OSBのすすめ(大阪開催)<br>カナダ産OSBを使用した耐震性、耐用性、省エネ化への提言 |
|----------------------------------------------------|

新たな大臣認定の構造性能や技術基準の解説を中心に、OSB(Oriented Strand Board)について総合的に解説します。

主催 カナダ林産業審議会  
APAエンジニアード・ウッド協会

日時 10月21日(火) 13:00～16:35  
(受付開始 12:30)

会場 マイドームおおさか第3会議室  
大阪府中央区本町橋2-5

定員 50名

受講料 無料

申込・問合 APAエンジニアード・ウッド協会  
Tel.03-5401-0537  
http://www.OSBpanel.org

|           |
|-----------|
| 鋼構造制振設計指針 |
|-----------|

|                      |
|----------------------|
| 講習会「鋼構造制振設計指針」(大阪開催) |
|----------------------|

制振鋼構造(鋼材ダンパーを設置した鋼構造物)の普及を図り、制振構造技術の健全な発展に資することを目的に講習会を開催します。

主催 日本建築学会構造委員会 鋼構造運営委員会

日時 11月28日(金) 11:00～16:30  
会場 大阪科学技術センター8階中ホール  
大阪府西区靱本町1-8-4

定員 200名

受講料 大阪士会会員13,000円(テキスト代含)  
テキスト 鋼構造制振設計指針

詳細はHPをご覧ください。

http://www.aij.or.jp/

申込・問合 日本建築学会近畿支部  
Tel.06-6443-0538

|                                    |
|------------------------------------|
| 大阪歴史博物館<br>特別展「村野藤吾 やわらかな建築とインテリア」 |
|------------------------------------|

今年は、村野藤吾の没後30年にあたることから、建築関係資料やインテリアを通して、その業績を回顧する展覧会を開催します。

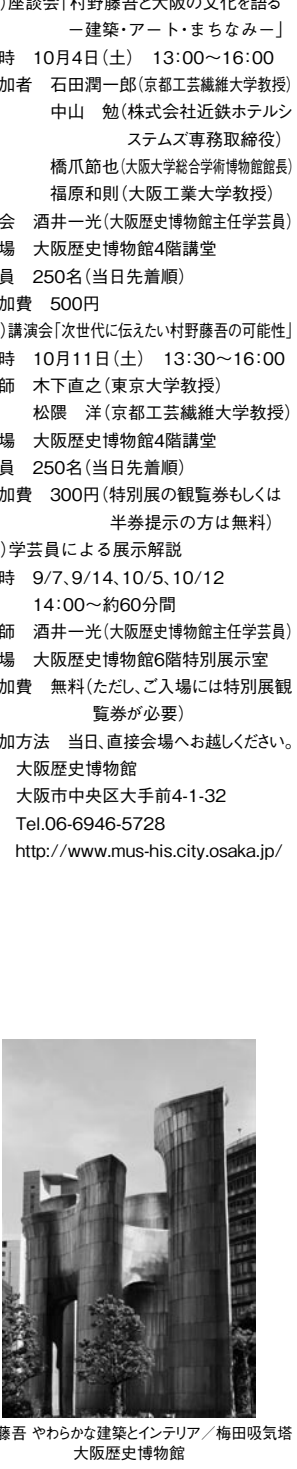
主催 大阪歴史博物館

特別協力 京都工芸繊維大学美術工芸資料館、村野家、MURANO design

会期 9月3日(水)～10月13日(月・祝)  
休館日 火曜日(但し、9月23日(火・祝)は

INFORMATION

|                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催、9月24日(水)は休館)                                                                        |
| 時間 9:30～17:00(金曜日は20時まで、入館は閉館の30分前まで)                                                  |
| 観覧料 特別展のみ 大人1,000円<br>常設展との共通券 大人1,500円                                                |
| 展示資料数 約200点                                                                            |
| 会場 大阪歴史博物館6階 特別展示室<br>大阪府中央区大手前4-1-32                                                  |
| 関連事業(抜粋)                                                                               |
| (1)講演会「村野藤吾の建築」                                                                        |
| 日時 9月6日(土)13:30～16:00                                                                  |
| 講師 笠原一人(京都工芸繊維大学助教)<br>橋寺知子(関西大学准教授)                                                   |
| 会場 大阪歴史博物館4階講堂                                                                         |
| 定員 250名(当日先着順)                                                                         |
| 参加費 300円(特別展の観覧券もしくは半券提示の方は無料)                                                         |
| (2)座談会「村野藤吾と大阪の文化を語る－建築・アート・まちなみー」                                                     |
| 日時 10月4日(土) 13:00～16:00                                                                |
| 参加者 石田潤一郎(京都工芸繊維大学教授)<br>中山 勉(株式会社近鉄ホテルシステムス専務取締役)                                     |
| 橋爪節也(大阪大学総合学術博物館館長)<br>福原和則(大阪工業大学教授)                                                  |
| 司会 酒井一光(大阪歴史博物館主任学芸員)                                                                  |
| 会場 大阪歴史博物館4階講堂                                                                         |
| 定員 250名(当日先着順)                                                                         |
| 参加費 500円                                                                               |
| (3)講演会「次世代に伝えたい村野藤吾の可能性」                                                               |
| 日時 10月11日(土) 13:30～16:00                                                               |
| 講師 木下直之(東京大学教授)<br>松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)                                                    |
| 会場 大阪歴史博物館4階講堂                                                                         |
| 定員 250名(当日先着順)                                                                         |
| 参加費 300円(特別展の観覧券もしくは半券提示の方は無料)                                                         |
| (4)学芸員による展示解説                                                                          |
| 日時 9/7、9/14、10/5、10/12<br>14:00～約60分間                                                  |
| 講師 酒井一光(大阪歴史博物館主任学芸員)                                                                  |
| 会場 大阪歴史博物館6階特別展示室                                                                      |
| 参加費 無料(ただし、ご入場には特別展観覧券が必要)                                                             |
| 参加方法 当日、直接会場へお越しください。                                                                  |
| 問合 大阪歴史博物館<br>大阪府中央区大手前4-1-32<br>Tel.06-6946-5728<br>http://www.mus-his.city.osaka.jp/ |

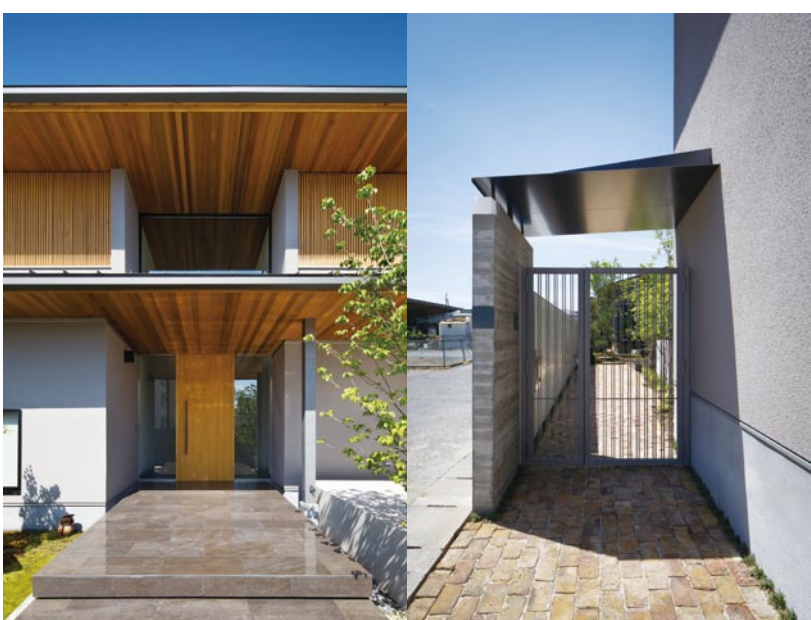


村野藤吾 やわらかな建築とインテリア / 梅田吸気塔 大阪歴史博物館



大阪市平野区に位置するJA（農業協同組合）の本店と支店である。  
3階建本館の1階2階は本店・支店の業務、3階は役員執務、食堂等がある。  
2階建別館の1階は地産農作物を販売する直売所、倉庫、2階には300名収容のホール、料理教室、多目的室がある。既存建屋の駐車場部分にまず本館を新築し仮使用中に旧本店を撤去後に別館部を建築した。  
内装は木目調で統一、収納は壁面と一体とした、本館の二面に渡る連装窓別館は印象深いR形屋根である。狭小の土地に本館と別館の2期に渡る建築工事である。金融機関の本支店としての機能性と地域密着の便宜性としてデザイン性を高次元で実現した。  
(大石隆洋)

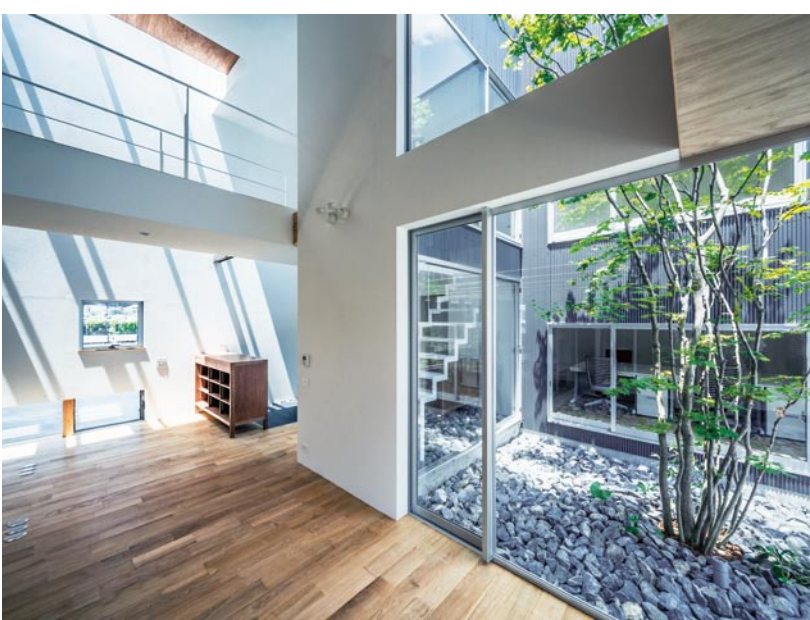
|      |                  |
|------|------------------|
| 所在地  | 大阪市平野区           |
| 用途   | 金融機関<br>本店<br>支店 |
| 竣工   | 2014.06          |
| 構造   | S造3階             |
| 敷地面積 | 1,864.93㎡        |
| 建築面積 | 1,294.87㎡        |
| 延床面積 | 2,743.59㎡        |
| 写真   | 真：砂田政樹           |



敷地は背中を京阪電鉄栗津駅に接し、道路を挟んだ対面には公営住宅が建ち並び、間口40m×奥行10mの横長の長方形のカタチをしています。取り巻く環境を考えた結果、周辺の環境から切り離された、小さいながらも敷地の中で完結する風景をつくる事としました。

横長の敷地の間口を最大限に使い、建物と庭や路地などの余白を配置しました。奥行の無さを逆手にとり、諸室が常に余白を介して外周部に接するように配置させる事で、周辺環境と生活空間の間に一定の距離を取る事が出来ました。開口部の向きや位置、面格子などで視線を制御し外部の風景を取り込む事で、閉じ過ぎず、かつ周辺環境の影響を抑えた、“家”としての穏やかな風景を得る事が出来ました。

所在地：滋賀県大津市  
用途：専用住宅  
竣工：2014.05  
構造規模：木造(SE工法)  
2階建て  
敷地面積：470.48㎡  
建築面積：243.33㎡  
延床面積：307.05㎡  
写真：富田英次



運送会社のオフィスとして、従業員やドライバーの人達に「自然や温もりを感じられる快適な空間」をテーマに計画した。又、限られた予算の中で、木造の集成材による在来工法を選択している。

敷地は幹線道路沿いに位置していた為、車の騒音を考え、建物を幹線道路から奥に配置した。又、建物西面を、西日対策として、窓を設けず、トップライトと地窓で、通風と採光を確保した。

どの部屋も中庭に向かって大きく開き、自然を感じることが出来、緑豊かな潤いのある空間にする事で、従業員の交流が誘発され、明るく快適に執務出来るオフィスになることを意図した。

所在地：大阪府堺市  
用途：事務所  
竣工：2014.07  
構造規模：木造2階建て  
敷地面積：2,118.67㎡  
建築面積：171.14㎡  
延床面積：267.01㎡  
写真：福澤昭嘉

# 大都市・大阪の「レジリエンス」を

## 一、私の「夢」

大阪府入庁以来、私は、「大阪府の二一世紀総合計画（平成二二年）や「将来ビジョン・大阪」（平成二〇年）、そして「グランドデザイン・大阪」（平成二四年）等の策定の過程において、大阪のあるべき姿を追求するために、時代時代に大阪が抱える諸課題について、多様なパースペクティブから議論をしてきました。それはひとえに、私の夢である「大阪の再生」を実現したいと思ったからです。私は、すでに「夢―大阪の再生をめざして」という著書を四冊編んでいます。その夢の具体化・実現化のために、この四月、大阪府住宅まちづくり部長に就任し、あらためてこの大都市のレジリエンス（この言葉には、「再起、再興」という意味があります。）をめざそうと考えています。

一昨年、大阪は経済・産業・雇用など様々な課題を抱えており、常にイノベーションを意識して新たな挑戦を続けていかなければ、日本国内でも、そして世界からも取り残されてしまうという危機感に襲われていました。バブル経済の崩壊、さらにリーマンショック等による世界的な景気低迷といった経済・社会情勢の変化を経て、これまでのハード、ソフト等の仕組みをグレート・リセットする必要に迫られていたからです。そこで、まさにジェイン・ジェイコブズやリチャード・フロリダが問題提起した都市の論理（それ

はあまりに北米型に先鋭化していたが）を、大阪という極めて特徴的で急速な発展を遂げそれ故に複雑化した多様で多数の課題を抱える大都市にあてはめた形で、変化し躍動しようとする大都市・大阪の大きな方向性の提示を模索しました。

## 二、巨大で圧倒的な「みどり」空間の創造

「グランドデザイン・大阪」では、魅力ある都市空間の創造に向けて、みどりの風を感じる大都市・大阪を実現するため、都心に圧倒的な「みどり」を創出することを大きな柱にしました。

大都市における価値は多様です。しかし、一度すべての思い込みの価値観から解放され、マックス・ヴェーバー的「価値からの自由」を得て、地域における価値を再発見し、それをストレングスとしてさらに高い地位まで高めることは試みる意味があります。

大阪には、美しい街並みや利便性の高いインフラ等もありますが、特に大阪都心部においては、「みどり」の創出が重要です。人が住み、働き、学び、楽しむことのできる都市空間において、身近に接する「みどり」があることは、様々な面で人間をはじめとする多様な生物に非常に良い影響を与えます。

大阪は世界の先進国における大都市の中でもみどりの山系水系が都心に迫っているという強みがあります。しかし大阪都心部に

おいては、七割弱の府民から「みどり」が少ない、という声が聞かれるのは誠に残念なことです。

そこで、圧倒的な「みどり」を創出する象徴的な取り組みとして、大阪都心部を南北に貫く御堂筋を、将来、全面的にみどり化することを掲げています。ニューヨークのセントラルパークやロンドンのハイドパークに匹敵する都心のみどりを生み出す、「御堂筋の全面みどり化」のためには、交通の確保など様々な課題が指摘されますが、今や御堂筋の交通量は約四〇年前と比べると六割程度で、また多くは通過交通に過ぎません。つまり、世界でもトップクラスの地価を誇る土地を排気ガスをまき散らすだけの車に通行させる価値は本当にあるのか、という問題提起にほかなりません。まさに、グレート・リセットであり、価値自由による発想です。

これも私の夢ですが、実現すれば、魅力的な「みどり」あふれる都市空間となり、府民はもちろん大阪を訪れる内外の人たちにとって身近で親しみやすく、子どもからお年寄り、障がいのある方、妊産婦などに優しい都市になり、さらには企業や観光客など国内外からの集客も見込め、それはまた、定住人口の増加にもつながります。まさに、都市構造の大変革です。

また、大阪の陸の玄関口ともいえるうめきた地区においても、みどり化を進めるこ

する大前提になるものと考えています。

夢と希望を持つて生きること、それが「幸せ」に他なりません。そのためには、住まう空間である「家」があり、心休まる「家族や親しい友人」がいて、そして、生活の糧を得るための「仕事」があることの三要素が必要と考えています。

その「家」は、安全で安心できるものであることが不可欠です。

大阪という大都市においても、府民が安全な環境で、安心して暮らせる住まいや都市を形成していくことは、基盤整備として極めて重要です。南海トラフ巨大地震等に備え、住宅・建築物等の耐震化や不燃化等に取り組み、災害に強い都市・大阪を目指すことは重点政策にすべきものです。

このため、四月に着任早々、「密集市街地対策推進」のプロジェクトチームを立ち上げました。地震時等に著しく危険な密集市街地や、耐震性の低い住宅・建築物が多く残されていたままでは、真の「大阪の再生」はあり得ません。災害に強い住まいと都市の形成を図ることで、「府民の生命・財産を守る」という行政最大の使命をしっかりと果たしていきます。

とが大切です。大阪都心に圧倒的な「みどり」を生み出すとともに、斬新で独自性が高く、玄関口に相応しい世界に、みどりの風を感じる大都市・大阪を強く印象づける「大阪の顔」となる都市空間の創出をめざしたいとの思いを持っています。

このような取組みを通じて大阪都心部に象徴的な「みどり」を創出していくことが、まさに新しい地域価値の創造であり、「大阪の再生」の実現につながると信じています。すぐに成果を出すのは難しいかもしれませんが、三〇年先、五〇年先の大阪の姿を見据えて、一歩一歩確実に進めていくことが重要です。五〇年はあつという間です。一年に％進めれば五〇年で半分はみどりになるわけです。決して「大阪にみどりが少ない」とは言わせない！をキャッチフレーズに、大阪都心の圧倒的なみどり化に取り組みたいと思っています。

さらに、みどりに彩られた大阪都心部の創造と併せて、LRT（次世代型路面電車システム）で大阪の都心を南北に貫くことも夢ではありません。私は、現在の阪堺線を天王寺公園に北伸し、天王寺動物園、新世界、通天閣あるいは四天王寺などの観光名所をLRTで結ぶことが出来ないか、また、御堂筋の全面みどり化と合わせてLRTを導入し、新大阪駅まで到達することが出来ないか、といったことを議論していました。

## 五、おわりに

私は、建築士とは単に建築物を建てるだけでなく、空間構成を創る職業だと思っています。そして建築人とは、まさに都市そのもののデザイナーであり、行政としても、様々な住宅政策や建築行政の推進を通じて、大阪の都市空間の創造を最大のテーマとして考える必要があります。創造力を持ってデザインし、論理力をもってシステム化し、実現する、それが大切です。

そのため、今年は特に、「グランドデザイン・大阪都市圏」策定、「大阪府住宅まちづくりマスタープラン」改定、密集市街地対策推進という三つの課題について、それぞれ関係部局連携によるプロジェクトチームを立ち上げ、積極果敢にチャレンジし、スピード感を持って集中的に取り組みたいと思います。

「大阪の再生」の実現のためには、行政だけでなく、民間企業や府民の皆さん、そして建築の専門家である建築士の方々のご理解とご協力が不可欠です。時代の大転換期を迎える中、これまでにない発想で新たな地域価値の創造に向けて取り組みますので、引き続きご支援、ご協力をいただきますよう、よろしく願います。

### 堤 勇二

大阪府住宅まちづくり部長  
一九五六年 大阪市生まれ。関西大学法学部卒。  
一九八二年 大阪府入庁。  
二〇一四年 四月から現職。趣味は街あるき。



写真1 阪堺電車新型車両



写真2 あべのハルカス



写真3 フェスティバルタワー

これからの日本の社会が避けて通れない高齢化、空き家の増加、コミュニティなどの問題がニュータウンでも顕在化してきています。関西を代表するニュータウンである、泉北ニュータウンがもつ構造的な問題とその取り組みについて、NPO 法人すまいるセンターの西上孔雄さんにご紹介いただきました。

## 超高齢化社会における泉北ニュータウンの課題

西上 孔雄

NPO 法人すまいるセンター 代表理事、株式会社西上建設 代表取締役

大阪府南部に位置する泉北ニュータウンは、昭和四十二年に入居がはじまり今年で四十七年目を迎えます。開発当初には、宅地募集の応募に申し込みが殺到し大変な人気であったそうです。しかし、平成四年の一六万四千人をピークに平成二六年三月では一三万一千人と人口減少が進んでいます。また最近では、少子高齢化・若年層の転出、公共施設の老朽化、近隣センターの機能低下、空き家問題など多くの街の課題を抱えています。

同じ泉北ニュータウン内でも住区によって異なる課題

駅から近い住区と駅から遠いエリアでは、同じニュータウン内でも抱える課題が異なっています。駅に近いエリアでは大阪府等が所有する公共用地を民間に売却し、そこに分譲マンションが建ち、若い世代が多く入居している。一方で、高齢化率が低く小学校の空き教室も少ないですが、駅から遠いエリアでは、少子化が進み小学校の空き教室が多くなっています。平成二五年一二月の統計では、駅に近い高齢化率の一番低い住区では二・三％に対して、駅から遠い高齢化率の一番高い住区では三七・〇％（泉北ニュータウン平均二八・六％）となっています。

空き家問題についても駅から近い住区と駅から遠いエリアでは抱える課題が異なっています。平成二三年の資料によると、駅に近い空き家が一番少ない府営住宅の空き家率が二・五％、駅から遠い空き家が一番多い府営住宅が二四・〇％（泉北ニュータウン平均二二・三％）となっています。

同じ泉北ニュータウン内でも、高齢化

まで住み続けたいと思っていて、既に四〇年以上の人生の過半を過ごしてきた団塊世代の住民にとって生まれ故郷ではないですが、第二の故郷として、この泉北ニュータウンが終の住処と思っているのです。

一〇年後には高齢化率が四〇％を超えたと予測されている泉北ニュータウン、地域の介護施設の入居待ちが増え続けている中で、府営住宅等の公的賃貸住宅の空き家がどんどん増え続けている。このアンバランスな関係をなんとか改善出来ないだろうか？

そこで、駅から一番遠く高齢化率も一番高い、第一期に開発された住区内で、地元自治会・NPO・近隣の大学・行政・高齢者に関わる民間企業と一緒に、三つの空き家や空き店舗を活用した「泉北ほっとけないネットワーク新近隣住区論」という取り組みを平成二二年度より開始しました。

一つ目は、府営の空き家を改修してショートステイ機能を持たせた高齢者支援住宅を開設（高齢者一二名が宿泊可能）。この住居は、府営住宅の一部屋（二DK四五㎡タイプ）に二人ずつ入居出来るように改修し、一泊から利用可能な見守り付き支援住宅として開設しています。（介護保険の有無に関係なく六〇歳以上であれば入居可能です）。

二つ目は、戸建ての空き家を改修し、高齢者向けのシェア住宅を開設（高齢者四名が入居可能）、築四〇年の空き家住宅を寄宿舎に用途変更し、耐震改修もおこない、入居者が同じコミュニティを共有出来るように庭には家庭菜園スペースを設けました。

三つ目は、近隣センターの空き店舗を

率と空き家の課題でこれだけ違う課題を抱えています。駅から近い住区では高齢化率もそれほど高くないし、空き家率も多くない、また近隣センターの店舗が無くて、駅前の商店で日用品の買い物が出来るので、それほど大きな課題は抱えていません。しかし、駅から遠い住区では、少子高齢化や空き家の増加、近隣センターの衰退化などによる買い物難民の問題など多くの課題を抱えています。

超高齢化社会に順応出来ないニュータウンの課題

高齢化が進む泉北ニュータウンでは、超高齢化社会に対応出来なくなっています。開発当初に全てのエリア区画整備を行った為に、時代の流れに対応出来る余地が全くないことが現在抱える一番大きな課題です。

高齢者が在宅で介護が必要になり、在宅介護が出来なくなった場合に、高齢者施設に移ることになるのですが、周辺の特別養護老人ホームも老人保健施設も既に入居待ちの待機者が何百人もいて、生きているうちに入居出来るかどうかとも判りません。在宅と施設の間の住まいとして国の指針によりササ付き住宅と高齢者住宅（以降は「ササ付き住宅」と表記）の建設が全国で進んでいます。泉北ニュータウン内にはササ付き住宅を建てる余地が無く、ニュータウン内で一般に流通している土地が第一種低層住居専用地域の土地のみなので、一区画あたりの土地面積も限られ高さ制限等からも、この用途地域にササ付き住宅を建設するのは不可能です。また、ニュータウンの外側エリアは市街化調整区域であり、農業従事者以外の住宅は建設出来ない

活用して高齢者向けの配食サービスとコミュニティレストランを開設しました。校区福祉委員会の方や地域の子育て世帯の方が単身の高齢者の見守りを兼ねて有償ボランティアとして配食のお弁当を届けてくれています。

これら三つの既存ストックを生かした福祉コンパージョンの拠点を中心に、地域の様々な団体が集まり「泉北ほっとけ

く、現在、泉北ニュータウン内にあるササ付き住宅は、例外的な土地（市街化地域と市街化調整区域の狭間に残っていた土地）に一棟三二戸があるだけです、これは泉北ニュータウンの高齢者人口の〇・〇七％分しか整備されていません。一方、隣の西区には高齢者人口に対して一・五六％の五〇五戸が既に登録されており、国の目指す目標を十分に満たしており、逆に過剰気味になっています。

こうした現状では、泉北ニュータウンの高齢者が在宅での生活が出来なくなり、ササ付き住宅に移住したいと思っても、区外に転居するしか選択肢が無く、区外に加え、高齢者の転出も増加することになり益々人口が減少します。

さらに超高齢社会により在宅介護の需要が増えると、デイサービスの出店や介護事業所・グループホーム等の出店が必要になりますが、泉北ニュータウン内には、これらの事業者が出店出来る場所が少なく、唯一一出店出来る場所が近隣センターの空き店舗しかなく、それ以外では、第一種低層住居専用地域内の空き家を改修してデイサービス事業をおこなっている事業所もありますが、近隣住民の同意や耐震基準の問題等で、ほとんど出店出来ないのが現状です。このように泉北ニュータウンには高齢者に関わる事業を開始出来る余地が全くなく、超高齢化社会に順応出来なくなっています。

エイジンググインプレイス・福祉コンパージョンの取り組み

泉北ニュータウン内の住民アンケートによると七〇％以上の人が、ここで最期

ないネットワーク」を立ち上げ、地域の高齢者をみんなで支え合う民学産官による協議会を設けています。エイジンググインプレイス・地域住民の共助による活動で、住みなれた環境でいつまでも住み続けることが出来るようなネットワークを構築する。まだまだ未熟な取り組みですが「地域包括ケアシステム」に活用出来るような活動に取り組んでいます。

空室から、みんなで使える部屋に団地内の高齢者支援住宅

After

お互いを支え合うような  
コミュニティが入り込む余地としての可能性

空き住戸から空き部屋へ

泉北ニュータウンの団地内にある「空き住戸」を思いのままに「空き部屋」のように考えたとしたら、団地の空室が様々な用途に活用出来るようになることができないでしょうか。空室であるものを活用してとらえるのではなく、有効に活用・変換することで、高齢者などの生活で必要な環境を作りだしています。

住戸とは、本来「世帯の生活が入っている」空間としての働き、思い通りの生活をもたず、素直に受け入れ、近所づきあいや親戚付き合いといった関係が相互に支え合うようなコミュニティ（地域層）が形成されることを目指しています。

このように、団地の空室を思いのままに「空き部屋」のように考え、有効に活用・変換することで、高齢者などの生活で必要な環境を作りだしています。

Before

10

SENBUKU STYLE

11

団地内の空き住戸を改修した高齢者支援住宅（SENBUKU STYLE vol.01 より）

13 2014.09 建築人

2014.09 建築人 12



# 淡路瓦イズム 『フルフラット』

近畿セラミックス株式会社  
<http://www.kincera.net/>

取材：中間伸和／建築情報委員会委員

400年の歴史を持つ淡路瓦は、「淡路瓦イズム」を通し、これからの時代に社会が必要とする瓦づくりに挑戦しようと考えています。今年も淡路瓦イズムを実践している会社を紹介しています。

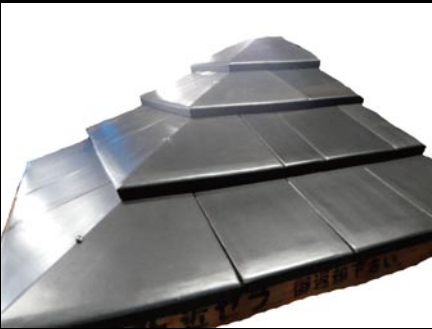
今回は、シンプルでフルフラットなフォルムの平板瓦「スーパーセラストレート」と、中に溶け込む瓦一体型太陽電池「VISOLA」(by KANEKA)を組み合わせた瓦屋根を開発・販売している近畿セラミックス株式会社です。

この屋根の売り行きはとても好調で、年間200棟に迫り、西は鹿児島、北は青森まで施工されているとのこと。

そして、この太陽光発電に関しては、販売当初と現在では、購入を検討する方の考え方が随分変わってきたそうです。

「以前は太陽光発電といえばどれくらい発電できるのか、施工費はどれくらいするのか、というコスト面の話ばかりでした。しかし最近では、どれくらい節電効果があるかにプラスして、意匠面に対するこだわりで採用される方が増えてきています」と話すのは近畿セラミックスの中井一人営業部長。

環境に優しい住宅を考えるのは、これからの時代当たり前。それだけでなく、自分の家を印象付ける「屋根」が太陽光発電を主張しすぎるのではなく、周りの住宅に違和感なく溶け込みながらも、シンプルな「カッコよさ」も追及したい住まい手の要望を満たす商品ということで、急速に採用が増えているようです。



一体型廻り隅瓦

また、今までシンプルさを追求する為の研究開発をしてきたが、現在もその追求は突き進めているとのこと、で、「フルフラットをずっと追求していくと、切妻屋根は良いのですが、寄棟屋根の棟の部分がとても気になってきました。そこで、さらに開発

を進めて、その部分を継ぎ目のない一体型に出来ないかと考えまして、出来上がったのが一体型廻り隅瓦(写真)です。これを使うと銅板一文字葺屋根のようなシンプルな廻り隅になるだけでなく、防水性も格段に上がります。」とのこと。

これから、フルフラット瓦、太陽光発電、一体型廻り隅等のユニット瓦を使って造るこのシンプルな屋根を「Ai システム」と名付けて販売展開していく計画で、「A は淡路瓦の A、i は innovation の i です。現在研究開発を進めていて、来年春には発売できる予定です」とのことです。

今までの瓦の概念を超えたシステムですので、新たな発想、かつてない場所への使い方も広がっていきます。

まだ試作段階ですが、興味をもたれた方はぜひ問い合わせをしてみてください。

■淡路瓦のお問い合わせ先  
淡路瓦工業組合  
兵庫県南あわじ市湊 134  
Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030  
info@a-kawara.jp  
<http://www.a-kawara.jp/>

## 建築物耐震評価業務のご案内

本会事務局

本会では、「建築物耐震評価委員会」を設置し、申込者の行った耐震診断や改修計画の妥当性を判定する評価業務を行っており、(一財)日本建築防災協会の「全国耐震ネットワーク委員会」に登録しております。

建築物耐震評価案件は、ぜひ本会にお申込下さい。

【対象建築物】  
建築物の所在地(全国)、公共・民間の別、規模、構造種別は問いません。

※本会会員 評価手数料一〇%割引  
安価な評価手数料の設定をしており、本会会員は、一〇%割引します。

※スピーディーな審査  
可能な限り短期間で評価書を発行できるように努めております。

【実績事例】  
・某ホテル(二階建 不整形 SRC三万八千㎡ 耐震診断(三次診断)・改修計画評価

・申込から委員会評価修了まで約六〇日間

【学識委員】(敬称略)  
大野義昭(大阪大学名誉教授)  
坂 壽二(大阪市立大学名誉教授)

倉本 洋(大阪大学教授)  
土井 正(大阪市立大学大学院准教授)

詳細は本会ホームページをご覧ください。  
【問合せ・申込】  
公益社団法人 大阪府建築士会事務局

## 建築相談〈建築相談室の業務〉

三つの「相談」を軸に

編・構成 橋本頼幸

今月は、建築相談室の三つの「相談」についてお話しします。

△相談その一▽電話相談

ご案内の通りこの四月から建築相談室は電話相談を、これまでの週三回から週五回(平日毎日)に増やしました。時間は午後一時～五時を、午後一時～四時の二時間減っていますが、一週間の延べ時間では、二時間から二五時間に増えています。

建築相談室の主たる柱であり、すべての相談の窓口なのが電話相談です。電話相談には建築士会の相談員が配置され、電話を受けてその場での相談や面接相談、現地相談への取次を行います。電話相談は、電話をかけてきたからからの話を聞き、多少のやりとりの上、分かる範囲でその場で回答することが主な内容です。その場でのやりとりを基本とし、原則として相談室からかけ直したり、後日フォローをするようなことはありません。また、電話相談だけで解決に至るケースは少ないでしょうが、相談者に何らかのきっかけや今後の選択肢を提示することができれば、相談者にとって電話相談の意味があるものと思います。相談者が素人で音声だけのやりとりなので十分なイメージの共有ができません。そういった相談者のために、有料ではありませんが面接相談や現地相談を用意しています。電話代の負担は相談者ですが、電話相談は無料です。ちなみに、昨年度実績で五四二件(週三回体制)の電話相談がありました。

△相談その二▽面接相談

面接相談は、平日(月～金)の午後四時から五時の間で、一組一時間で五四〇〇円の費用がかかります。この費用は全て事務局の事務経費

に当てられます。電話だけでイメージが共有できない相談に対して、図面や写真を相談者に参加してもらい、その図面などを元に面接によって相談を行っています。昨年度実績で二件の面接相談がありました。

また、火曜日については住宅を設計する仲間たちによる新築・リフォームなどの相談、木曜日はマンション維持管理研究会によるマンション管理に関する相談になっています。

△相談その三▽現地相談

現地相談は、電話相談で受け付けて、特に希望される依頼者からのみ受けています。原則として、①本格的な調査はしない(調査内容は相談員個人に任されているがあくまでも現地相談の業務内で行います)、②書面を作成しない、ということに依頼者に確認の上で、相談員の担当が割り振られます。原則として複数人で対応することになっています。一人での対応は、電話応答者が調査員となることはできませんが、複数人対応の場合の一人になれるルールになっています。現地相談は、半日で三三〇〇円、一日で五五〇〇円を原則としており、遠方でない限り交通費は含んでいます。そのうち、それぞれ三〇〇〇円、五〇〇〇円が事務局経費となっており、

現地で確認しないとわからない相談について有効な手段であり、昨年度実績は二九件でした。自分のスキルアップにもつながります

現在約三〇名の相談員がおりますが、相談員になれる方を募集しています。初心者の方でも、ベテラン相談員と組んで電話や面接、現地相談を担当してもらいますので、経験がなくても構いません。自分のスキルアップにもつながります。お手伝いいただける方はお気軽に事務局にお問い合わせください。

## 大阪ホンマもん解説

写真 田龍哲也 文 牧野隆義

難波より千日前通を東へ向かうと、近鉄上本町ターミナルビルと並び白い建物が見え、西方向に力強くそびえ立つ。同ホテルは昭和六十年(一九八五年)に上本町駅のターミナル整備計画により隣接する「都ホテル大阪」(現エラトン都ホテル大阪)として計画された。設計は村野・森建築事務所。規模は地下二階、地上二階建て。目を引く足元部分の太い柱型は、地下鉄の給排水口をデザインしたもの。建物の間口は縦方向の安定したデザインにより、この界隈に落ち着いた雰囲気もたらしている。なお完成する前年に村野氏は亡くなられており、遺作とも言える。村野氏は戦前から近畿日本鉄道と関わりがあり、戦後は更に発展していった。特に上本町界隈においては、同ホテルや上本町ターミナルビル。そして近鉄本社屋、近鉄会館などがあり、天王寺界隈を含めた大都市で、村野氏が果たしてきた役割は大きい。

現在は、阿倍野・ルカスなどが次々と開業し、天王寺界隈も大きく変容してきた。今後も、建築が持つべき社会的意義を考えていきたい。

## 建築人 9 2014

|       |                          |      |  |
|-------|--------------------------|------|--|
| 監修    | 公益社団法人大阪府建築士会<br>建築情報委員会 |      |  |
| 編集    | 建築情報委員会『建築人』編集部          |      |  |
| 編集人代表 | 米井 寛                     | 飯田英二 |  |
| 編集人   | 荒木公樹                     | 中江 哲 |  |
|       | 筑波幸一郎                    | 牧野隆義 |  |
| 事務局   | 橋本頼幸                     | 母倉政美 |  |
|       | 山本茂樹                     |      |  |
| 印刷    | 中和印刷紙器株式会社               |      |  |



## 斑鳩の家 中山建築設計事務所 中山大介

初めて敷地を訪れた時、隣で畑仕事をしている老夫婦の素朴な佇まいをみて、人の生活と風景が自然に馴染んでいることを感じることができ、その時間の流れを壊さぬよう素直な建築を成り立たせること、生活に寄り添う住宅であることが重要だと思った。日差しを遮ること、風雨を凌ぐこと、寒暑を和らげるといった建築の本質的な役割をしっかりと作りあげることが優先し、そしてこの里の風景を受け継いでいけるような家を想像しながら設計を進めた。

敷地の東側に7.8m角の正方形平面の躯体を方位に合わせて配置し、軒の出が深い方形屋根を架け、過不足のないよう断面寸法、屋根勾配を調整し、据わりの良い姿勢を心がけた。正方形平面の中心に階段を配置し、居間や客間などを南側へ、家事動線を北側へ廻した。居間の南側開口部は戸外との一体感が得られるよう引き込み戸とし、雨戸、網戸、ガラス戸、障子を仕込んでいる。2階はざっくりとおおらかなプランになっており、寝室、便所以外は建具を設けず常に隣の部屋との関係を保ちながら回遊できる。また窓から軒裏が見える位置まで軒高を抑えることにより、大きな屋根に守られて生活していることを感じることができる。

瓦屋根、しっくい壁など既にこの土地に馴染みのある材料を選択することで歴史ある風景の中でこの家がこの地に馴染んでいくことを期待した。またスケールやプロポーションに配慮しながら、住まい手だけでなく誰もが自然だと思える建築のあり方を模索した。

第59回大阪建築コンクール渡辺節賞受賞作品

### ■プロフィール

1978年 島根県生まれ  
2001年 大阪市立大学卒業  
2003年 京都府立大学大学院修了  
2005年 HTAデザイン事務所  
2010年 中山建築設計事務所設立

### ■建物データ

設計：中山建築設計事務所  
施工：李工舎  
所在地：奈良県生駒郡  
用途：住宅  
竣工：2012年3月  
構造規模：木造2階建  
敷地面積：279.66㎡  
建築面積：67.24㎡  
延床面積：121.68㎡

